

令和6年6月

令和6年	4月	～	6月期	実績
令和6年	7月	～	9月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 平成15年1月以降	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

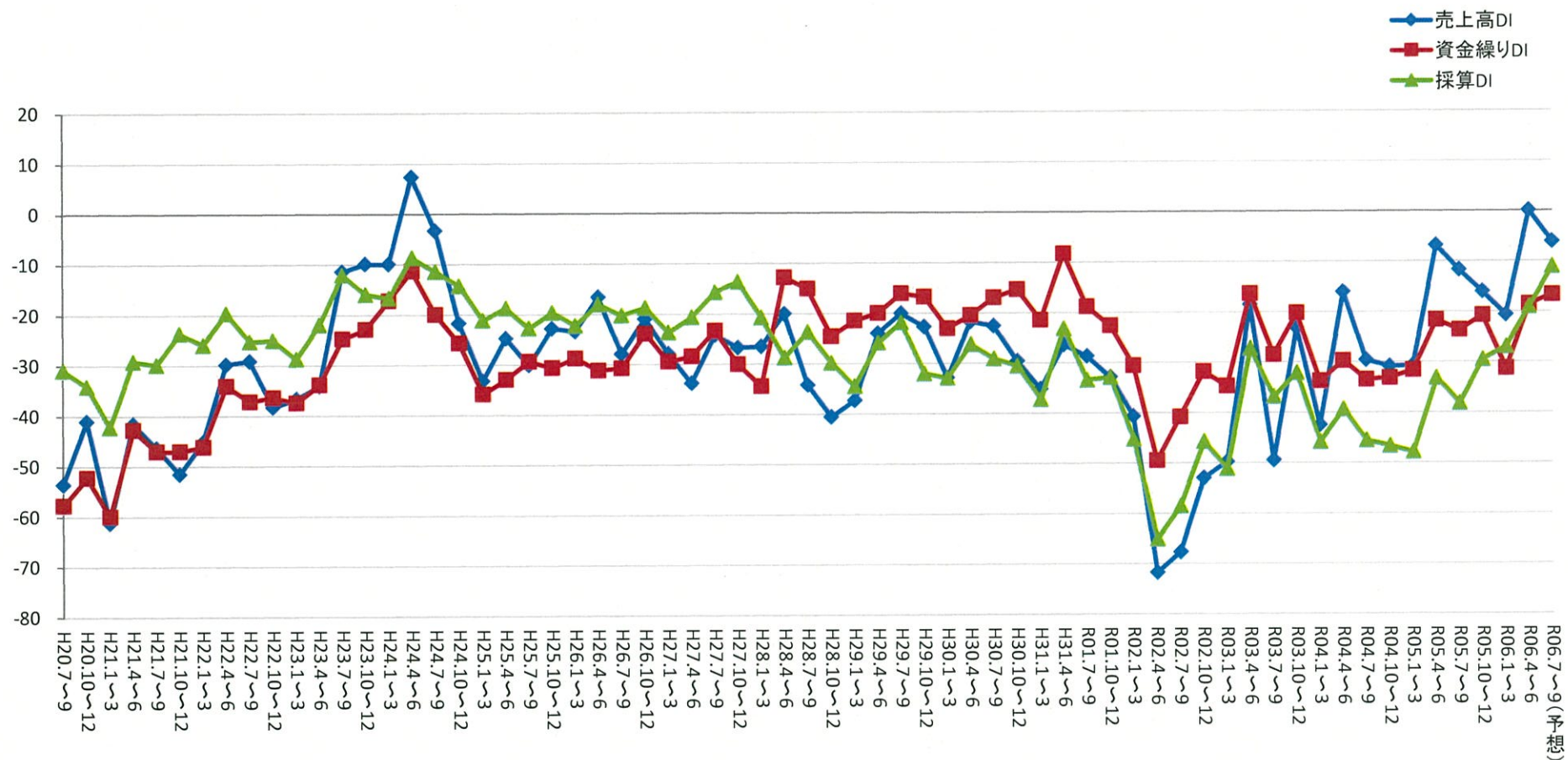
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き 一前年同期比一



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	令和4年 7～9月	10～12月	令和5年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和6年 1～3月	(今期) 4～6月	(見通し) 7～9月
製 造 業	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 晴
建 設 業	 曇	 雨	 雨	 曇	 雨	 曇	 曇	 晴	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 雨	 雨	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 雨	 雨	 曇	 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

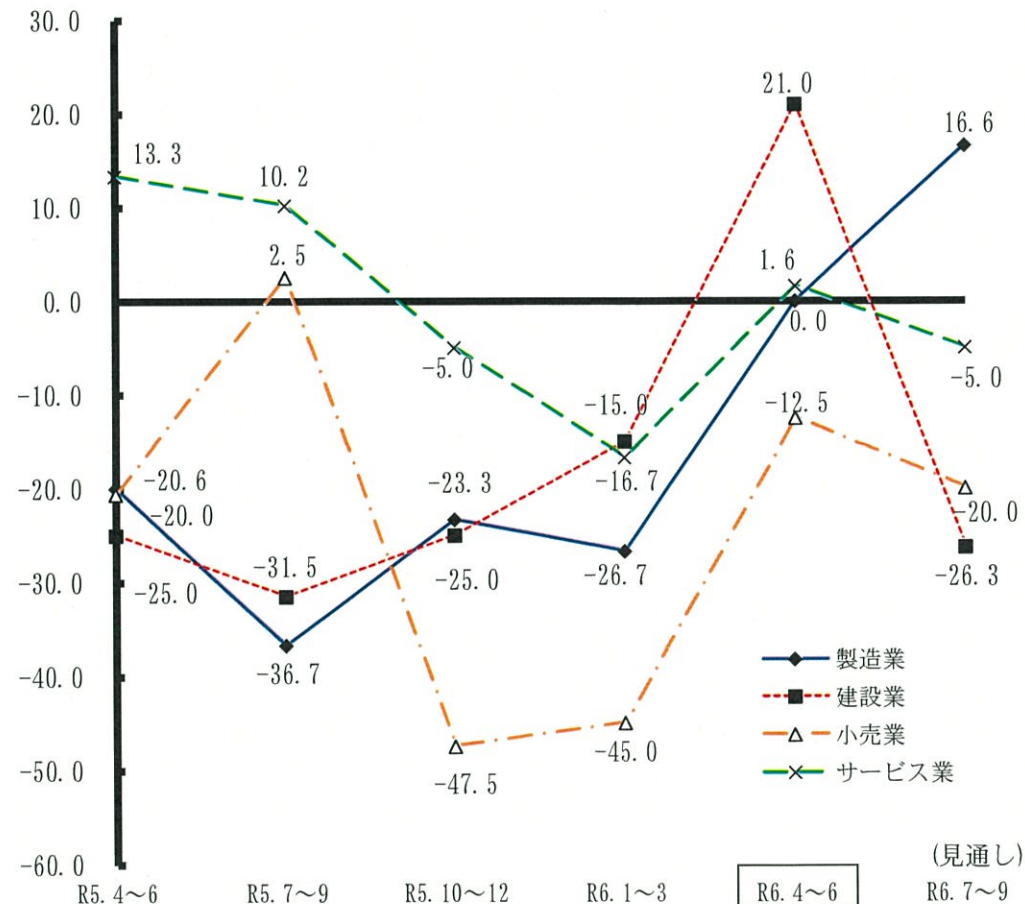
全業種において売上高D・Iが改善
建設業、サービス業はプラス域まで上昇

今期の売上高D・Iは、全産業において改善となりました。建設業は3期連続の改善となり、平成29年1～3月期以来、7年ぶりにプラス域に到達しています。

建設業は36.0ポイントの大幅な上昇により21.0まで改善、サービス業も18.3ポイント上昇してプラス域となり、1.6まで改善しています。製造業も26.7ポイント上昇して0.0となっています。また、小売業も32.5ポイントの大幅な上昇により△12.5まで改善しています。

来期は、製造業は今期に引続き大幅な改善が見込まれるものの、3期連続して改善傾向にあった建設業は大幅な悪化に転じ二桁のマイナス域となり、また、サービス業、小売業も悪化に転じる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採 算

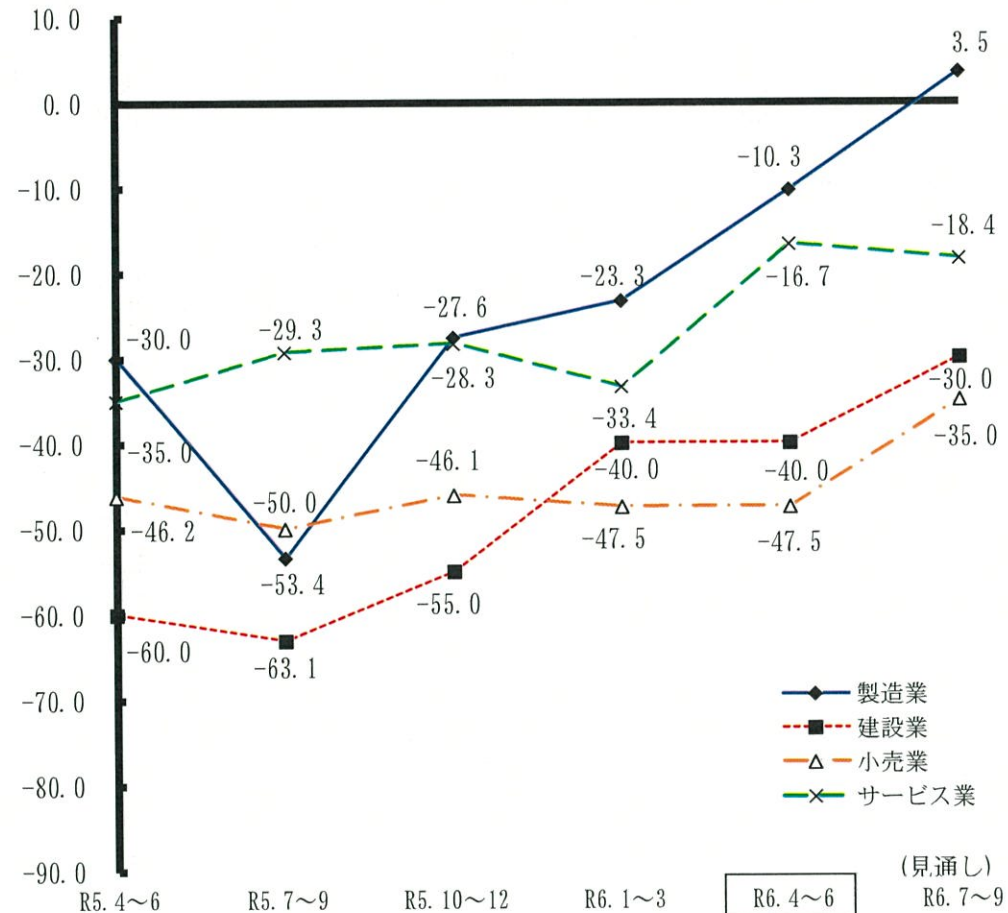
製造業、サービス業において採算D・Iが改善
建設業、小売業は横ばい

今期の採算D・Iは、製造業が3期連続の改善となりました。また、サービス業も改善に転じています。他方、建設業、小売業は横ばいにとどまりました。

製造業は13.0ポイント上昇して△10.3まで改善、サービス業は16.7ポイントと大幅に上昇して△16.7まで改善しました。他方、建設業は横ばいの△40.0、小売業も横ばいとなり△47.5の低い水準にとどまっています。

来期は、製造業が今期に引続き改善してプラス域に達することが見込まれます。また、今期横ばいにとどまった建設業、小売業が改善に転じることが予想されるものの、今期大幅に改善したサービス業は小幅ながら悪化することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

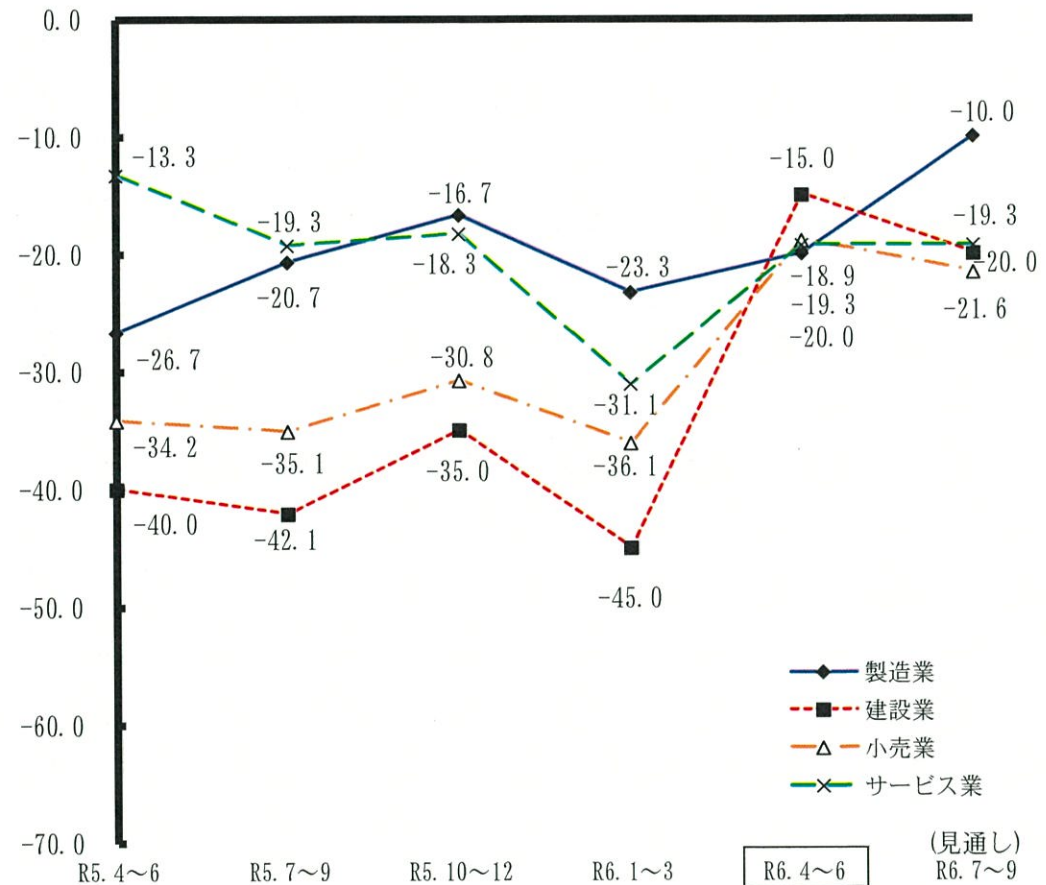
資金繰り

全業種において資金繰りが改善
建設業、サービス業、小売業が二桁の改善

前期、全業種において悪化していた資金繰りD・Iは、今期は全業種において改善に転じました。

前期悪化傾向にあった建設業は30.0ポイントの大幅な上昇により△15.0まで改善、同じく悪化傾向にあった小売業も17.2ポイント上昇して△18.9まで改善、サービス業も11.8ポイント上昇して△19.3、製造業も3.3ポイントと小幅ながら上昇して△20.0までそれぞれ改善しています。

来期は、製造業においては引き続き資金繰りD・Iの改善が見込まれるものの、今期大幅に改善した建設業、小売業は小幅ながら悪化に転じることが予想され、サービス業は横ばいにとどまると見込まれています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

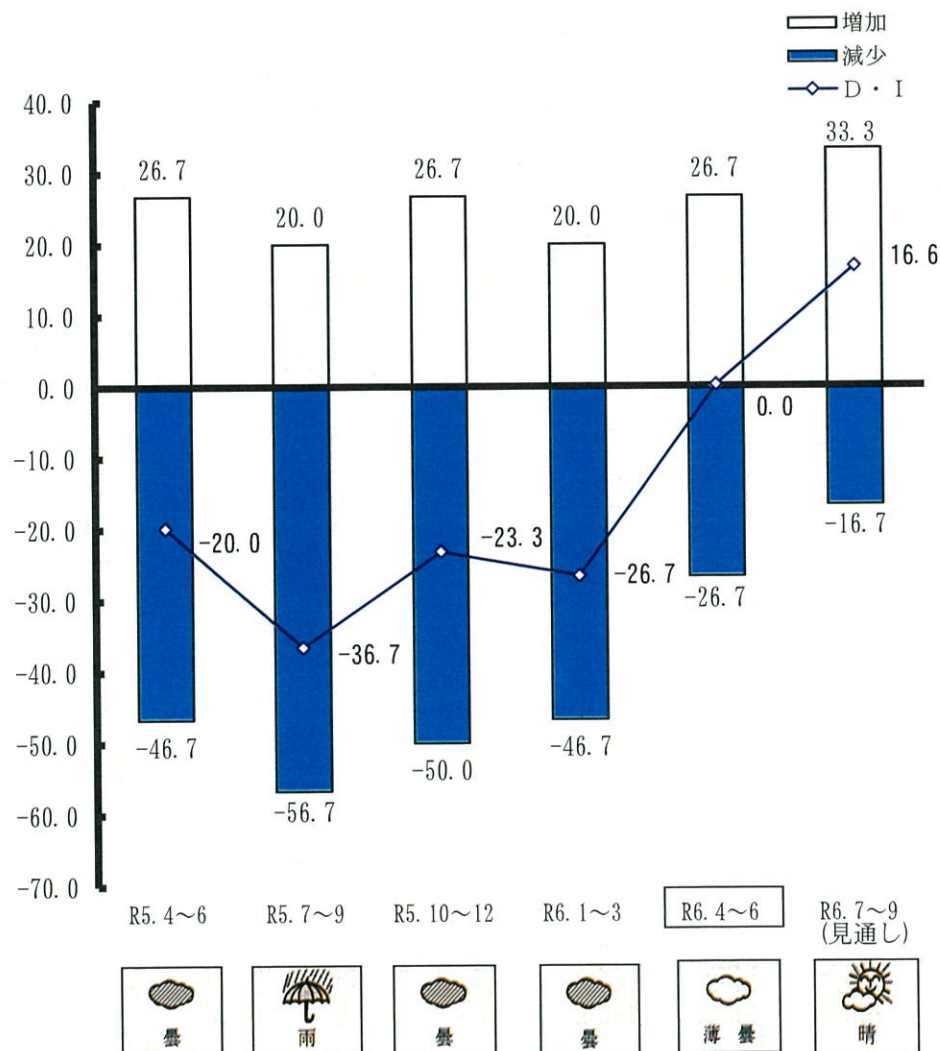


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が6.7ポイント増加し、売上高減少企業の割合が20.0ポイント減少したことにより売上高D・Iは26.7ポイントの上昇となり0.0となっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が引続き増加し、売上高の減少を予想する企業割合も減少することから、売上高D・Iは大幅に改善する見通しです。



製造業の推移

採算

<今 期>

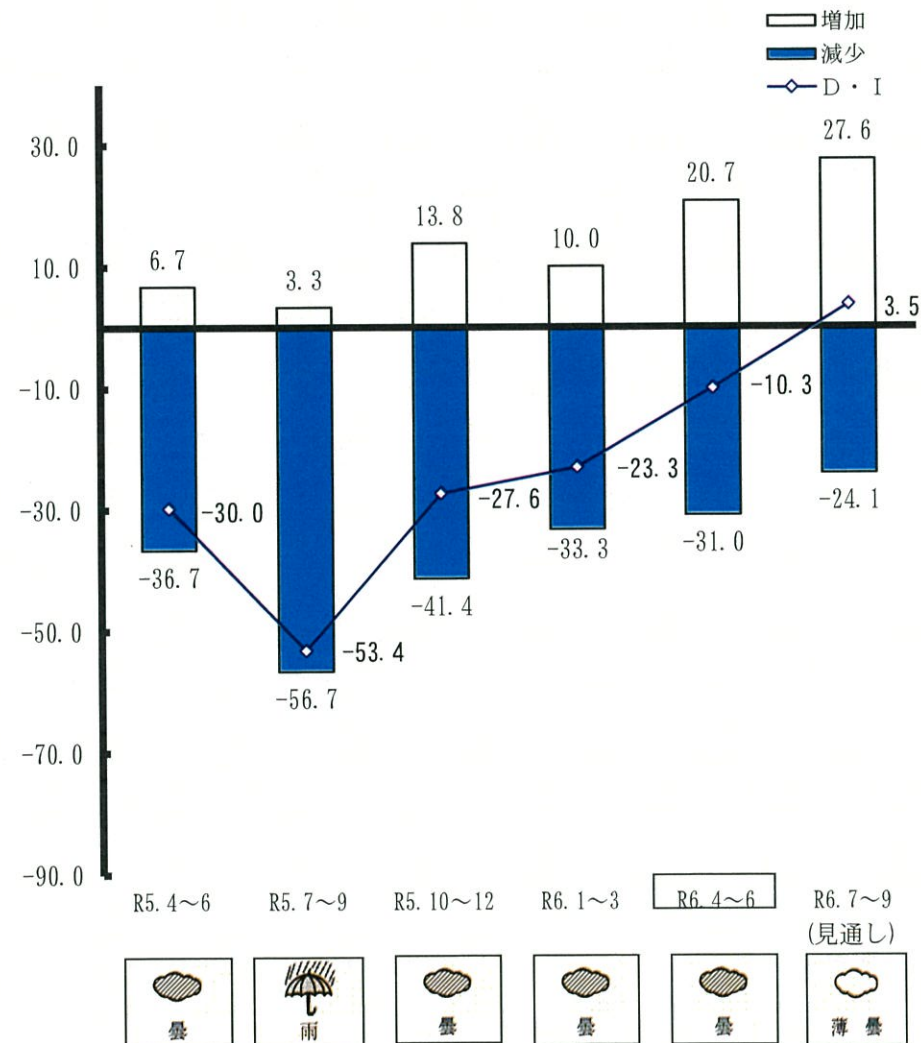


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が10.7ポイント増加し、採算が悪化した企業の割合が2.3ポイントの減少となったことから、採算D・Iは13.0ポイントの上昇となり、△10.3まで改善しました。

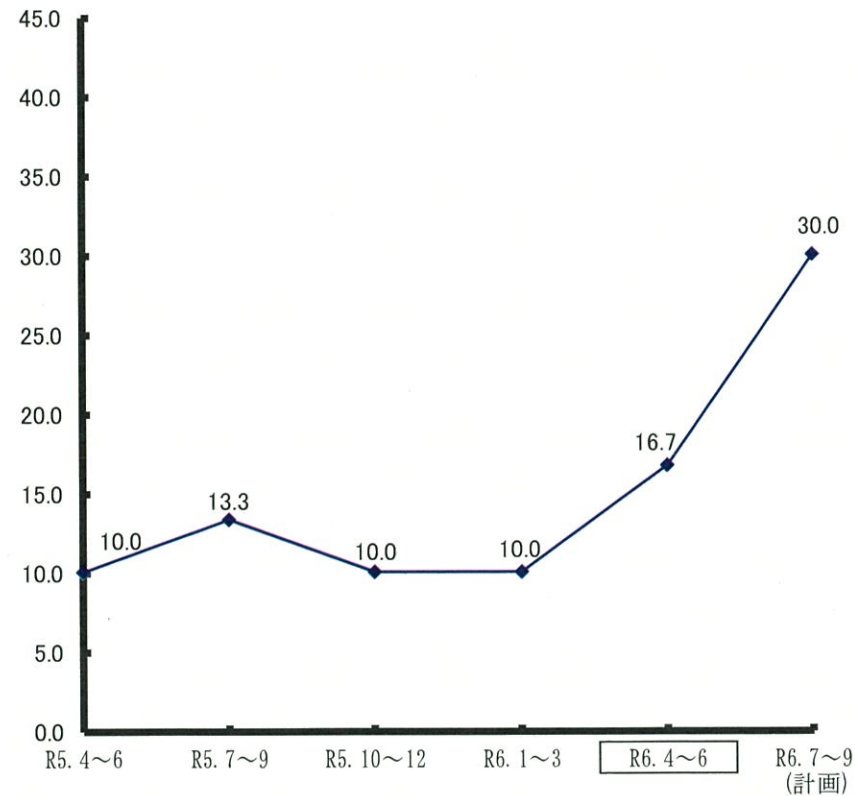
来期は、採算の改善を予想する企業が引続き増加し、採算の悪化を予想する企業も減少となることから、採算D・Iは、引き続き上昇してプラス域に達して景況天気図も曇りから薄曇りへと変化することが予想されています。



設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は6.7ポイント増加し16.7まで上昇しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合が今期に引続き大幅に増加し、30.0となることが予想されています。



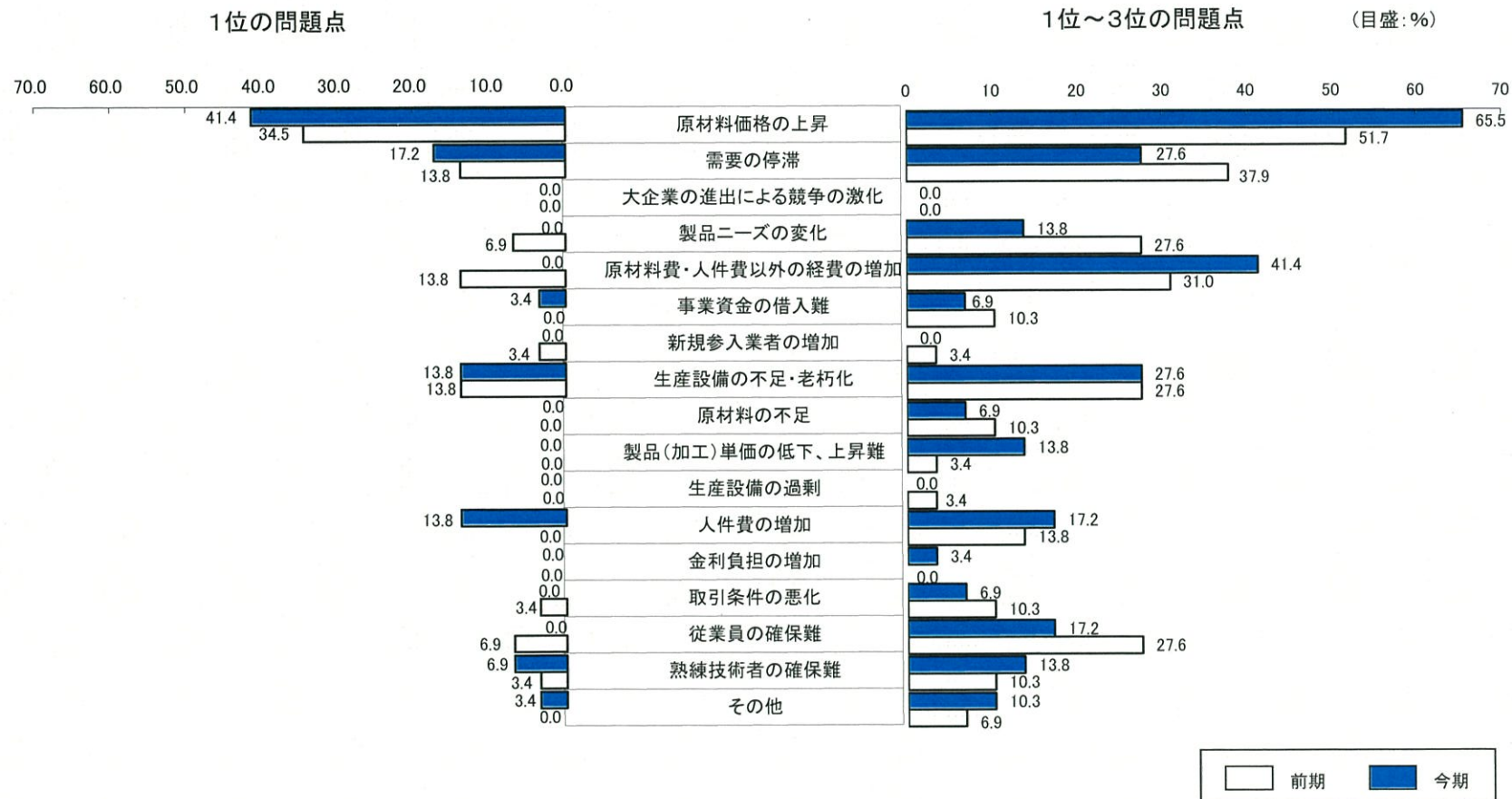
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



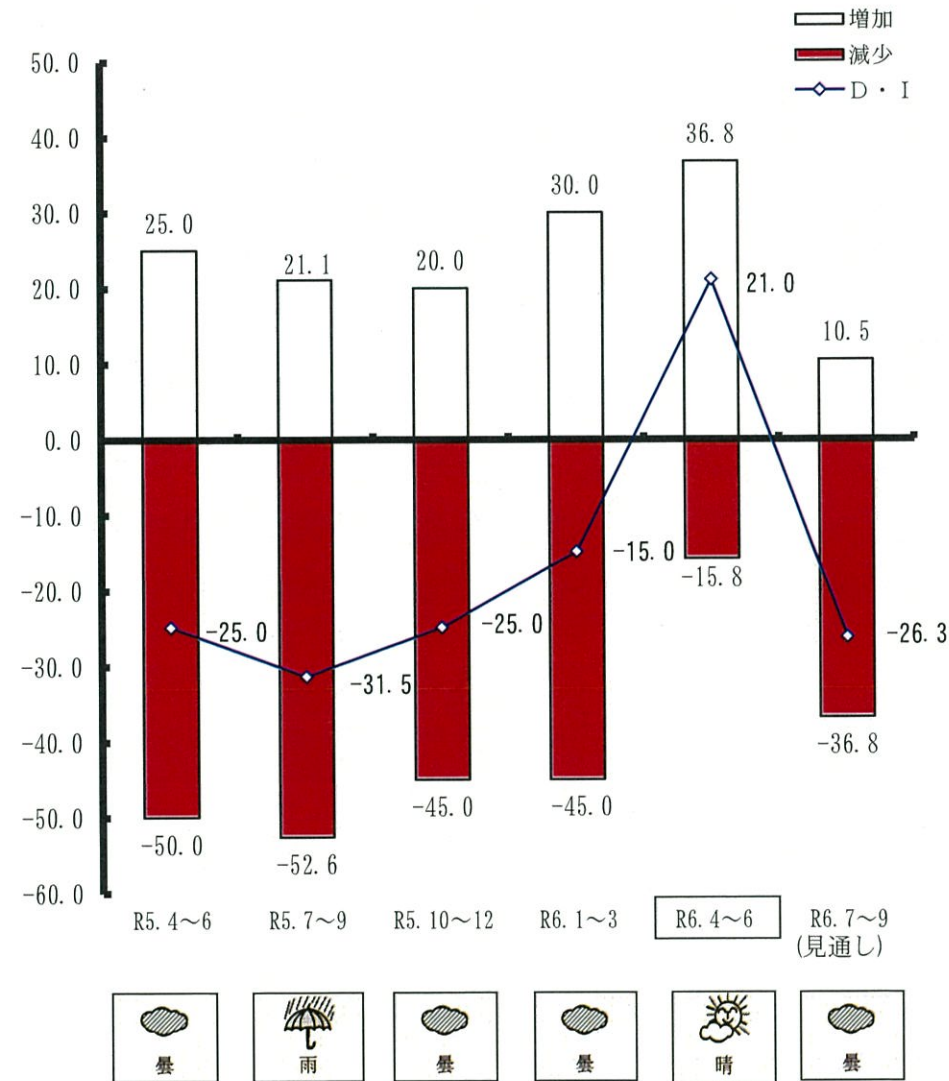
<来期見通し>



建設業の売上高D・Iは、3期連続して上昇し、二桁のプラス域に達しています。今期は、売上高が増加した企業割合が6.8ポイントの増加となり、売上高が減少した企業割合が29.2ポイントと大幅な減少となったため、売上高D・Iは3期連続の上昇となり、21.0まで回復しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が大幅に減少し、売上高の減少を予想する企業の割合が増加することから、売上高D・Iは大幅に低下し、再び二桁のマイナス域まで悪化することが予想され

※建設業の売上高は完成工事高



採算

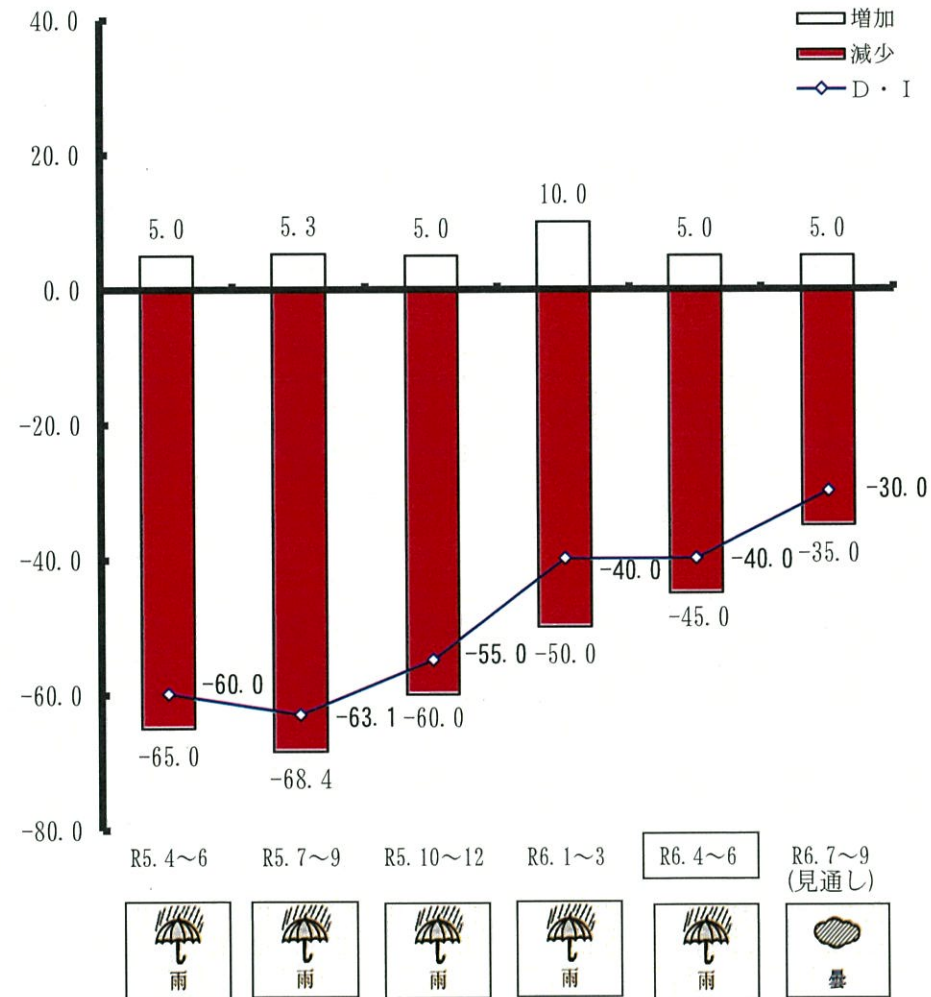
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、5.0ポイント減少し、採算の悪化を挙げた企業の割合が5.0ポイント減少したため、採算D・Iは前期と横ばいの△40.0にとどまりました。

来期は、採算の改善を予想する企業は今期と横ばいにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは改善となり、景況天気図も雨から曇へと変化することが予想されています。

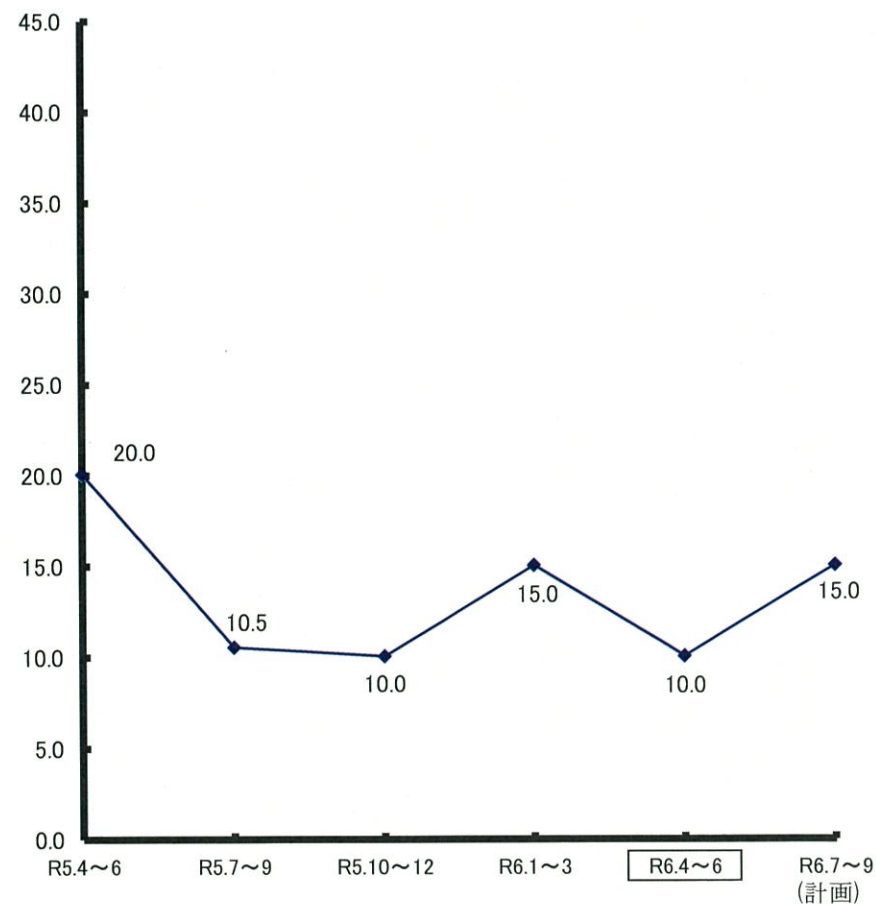


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期から5ポイント減少し10.0となりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は5.0ポイント増加し15.0程度となることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

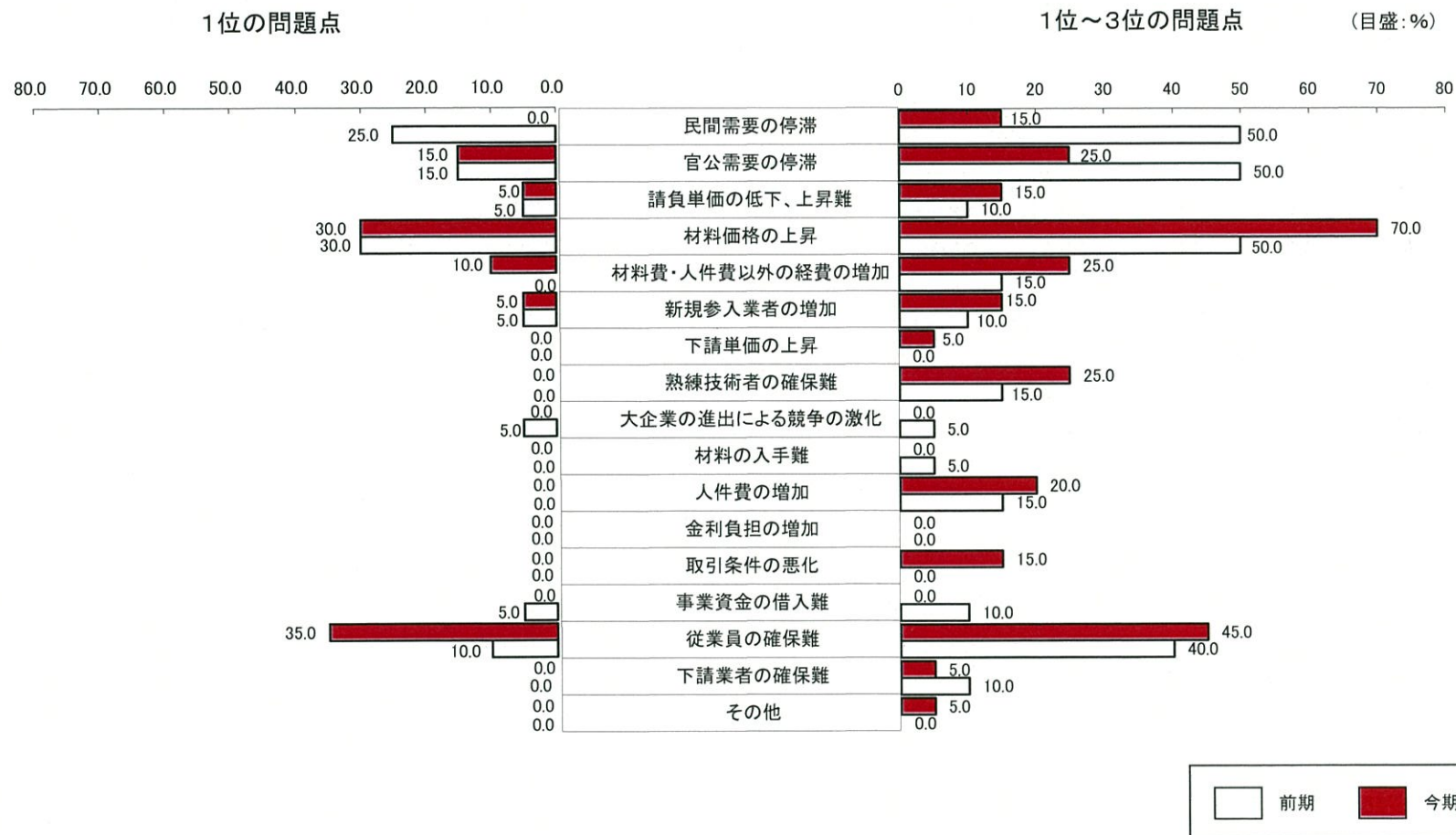


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小売業の推移

売上高

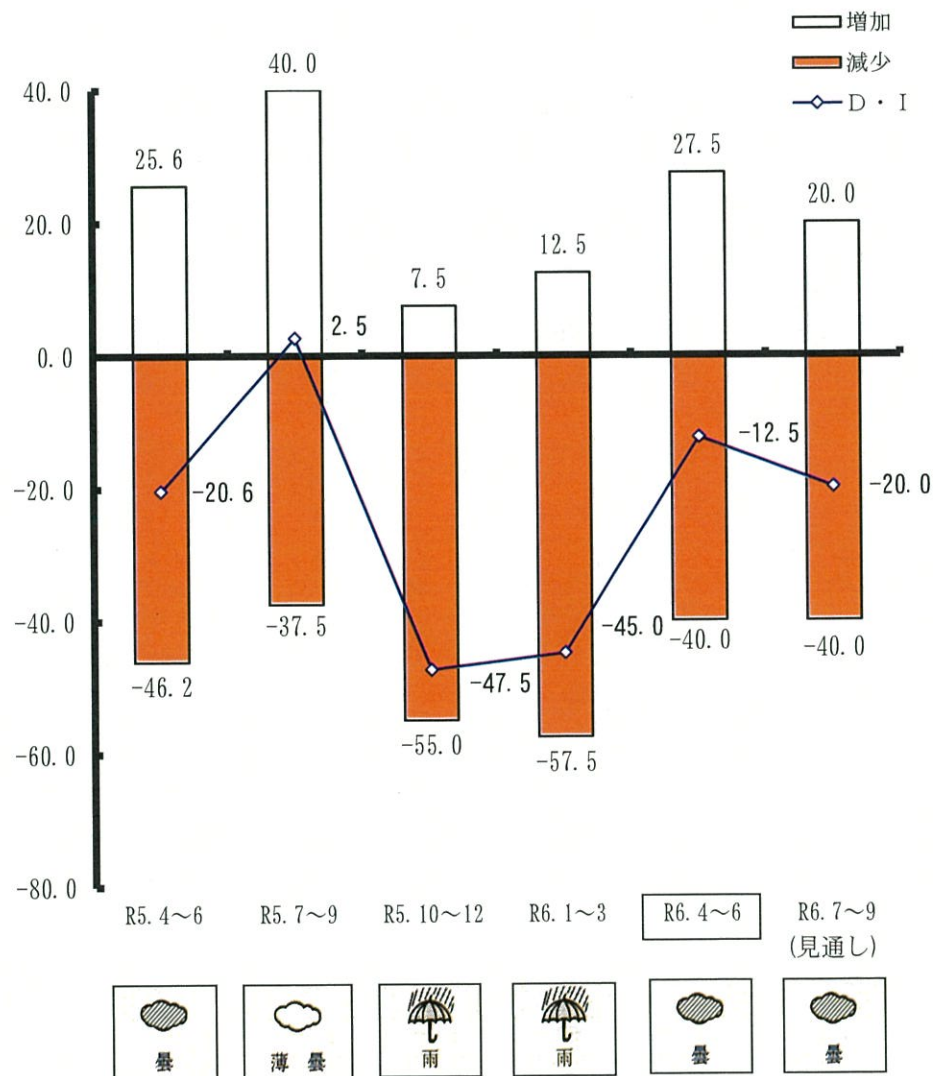
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が15.0ポイント増加し、売上高減少企業の割合が17.5ポイント減少したことにより、売上高D・Iは32.5ポイントの大幅な上昇となり△12.5まで回復しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少に転じ、売上高減少を予想する企業割合が今期と横ばいにとどまることから、売上高D・Iは悪化に転じる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

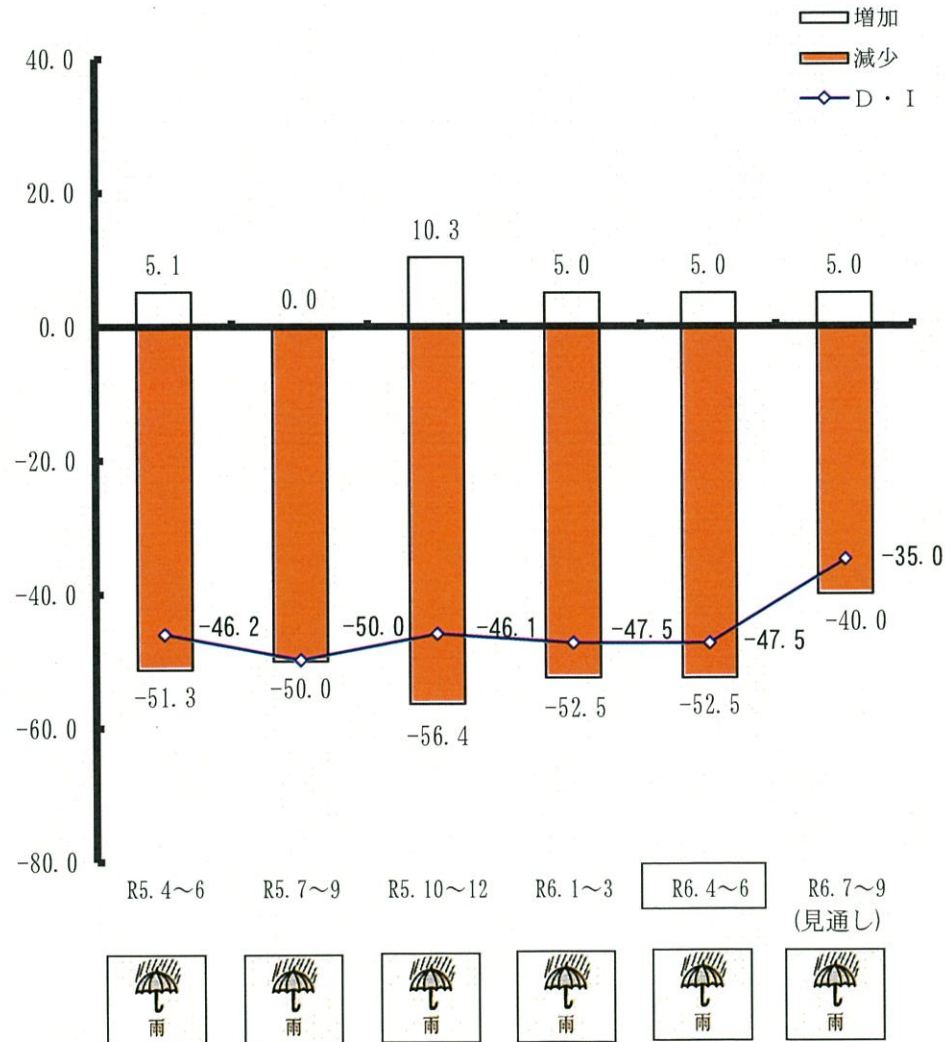


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合、採算が悪化した企業割合がともに前期と同じレベルにとどまったことから、採算D・Iは前期と同じ△47.5の低い水準にとどまりました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が今期と同じレベルにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少したことから、採算D・Iは改善に転じる見通しです。

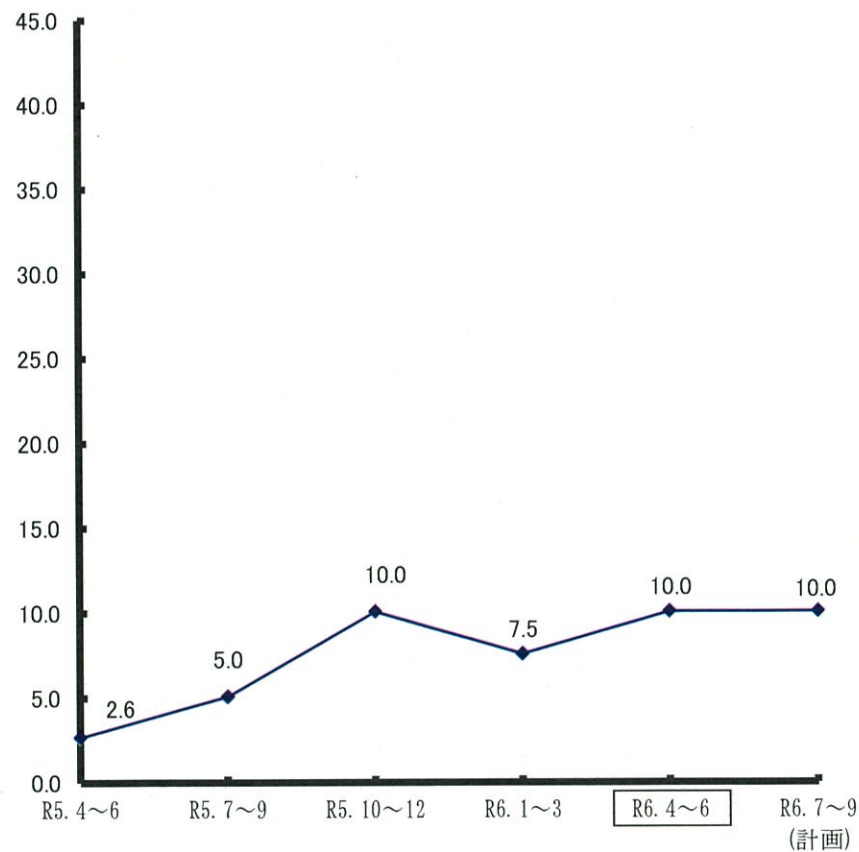


小 売 業 の 推 移

設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より2.5ポイント増加して10.0となっています。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は今期と同じレベルにとどまる見通しです。



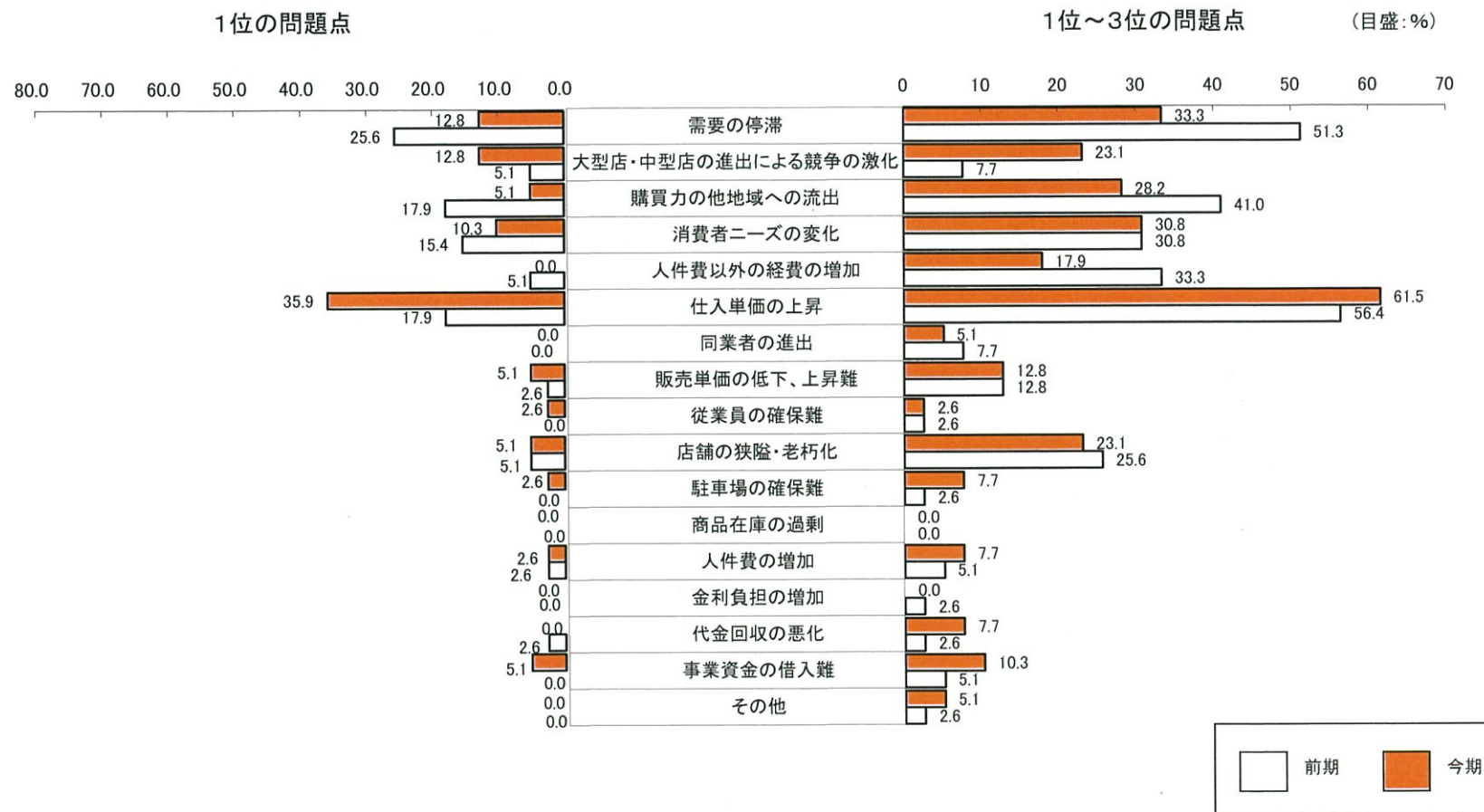
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

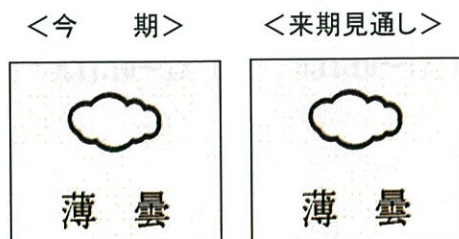
岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



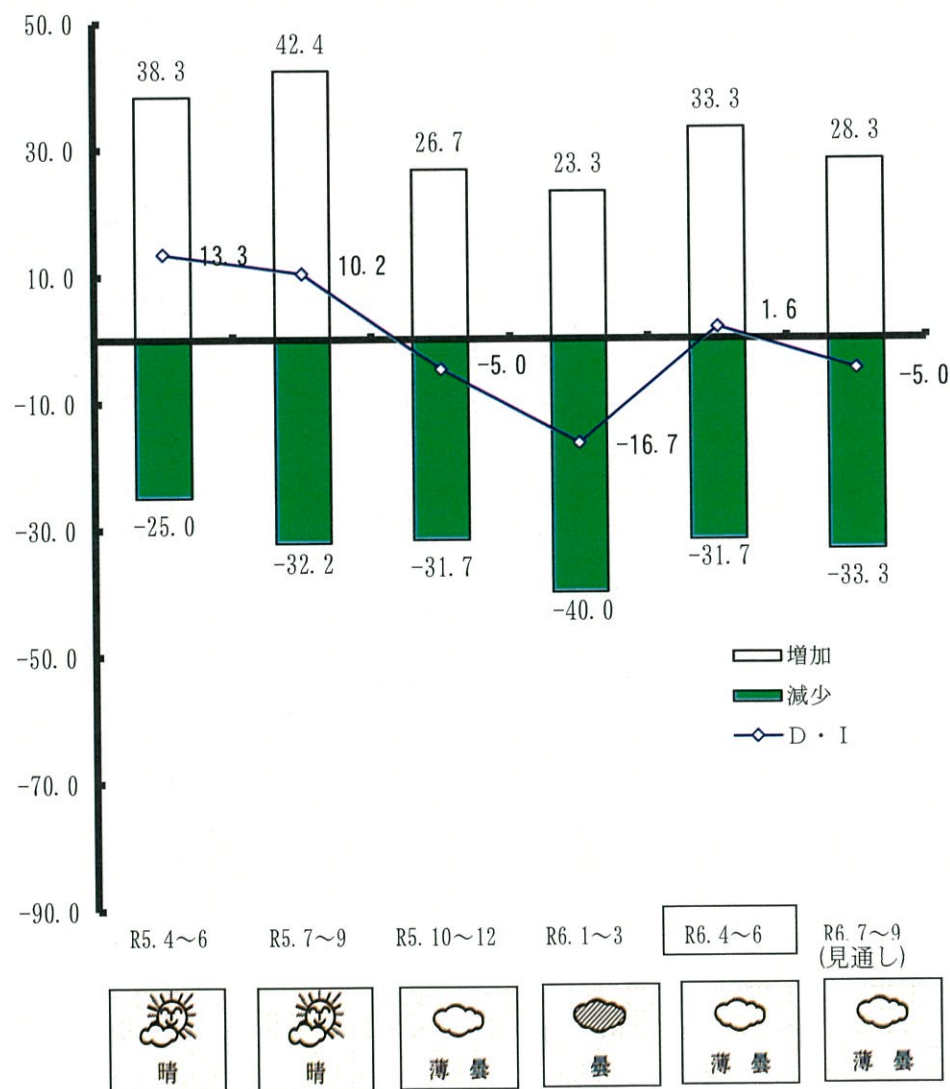
サービス業の推移

売上高



今期は売上高増加企業の割合が10.0ポイント増加し、売上高減少企業の割合が8.3ポイント減少したことにより、売上高D・Iは15.1ポイント増加してプラス域に達し、1.6まで回復しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少に転じ、売上高減少を予想する企業割合が増加していることから、売上高D・Iは悪化に転じ、再びマイナス域まで低下することが予想されています。



サービス業の推移

採算

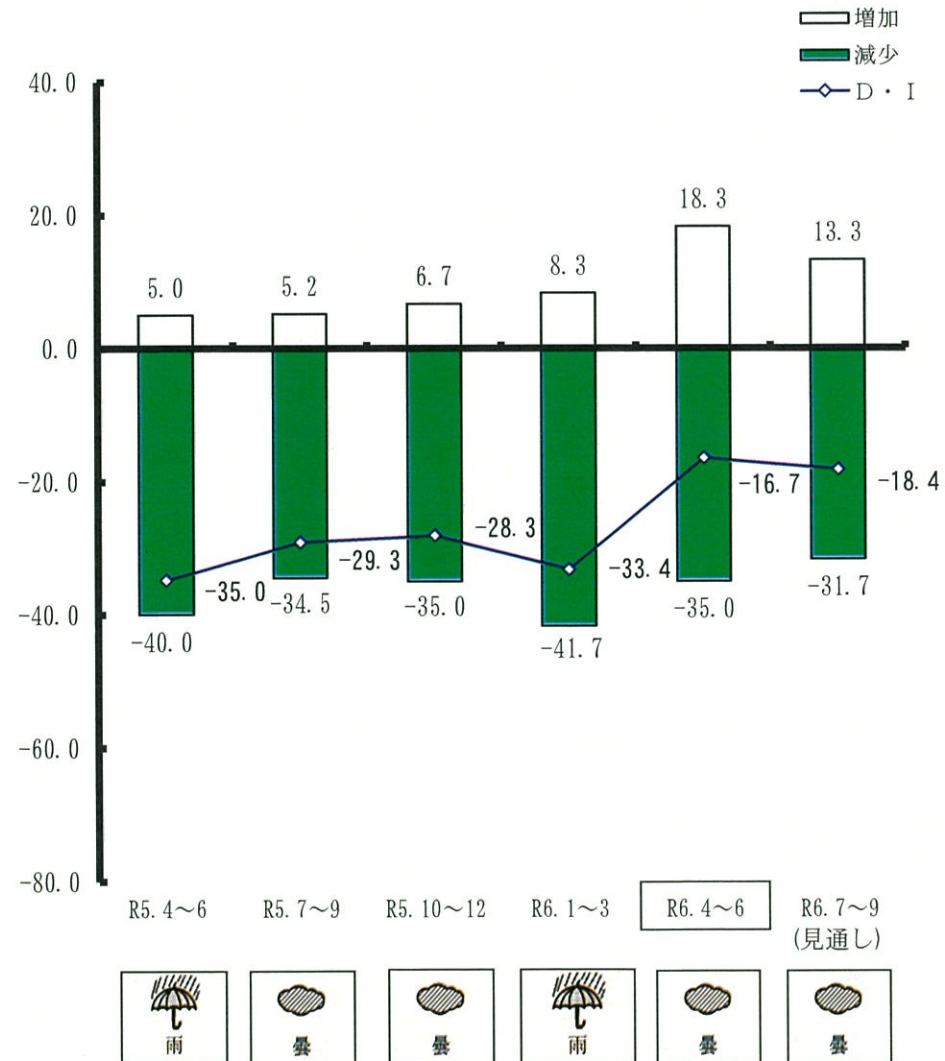
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が10.0ポイント増加し、採算が悪化した企業割合が6.7ポイント減少したことにより、採算D・Iは上昇に転じ、△16.7まで改善しました。

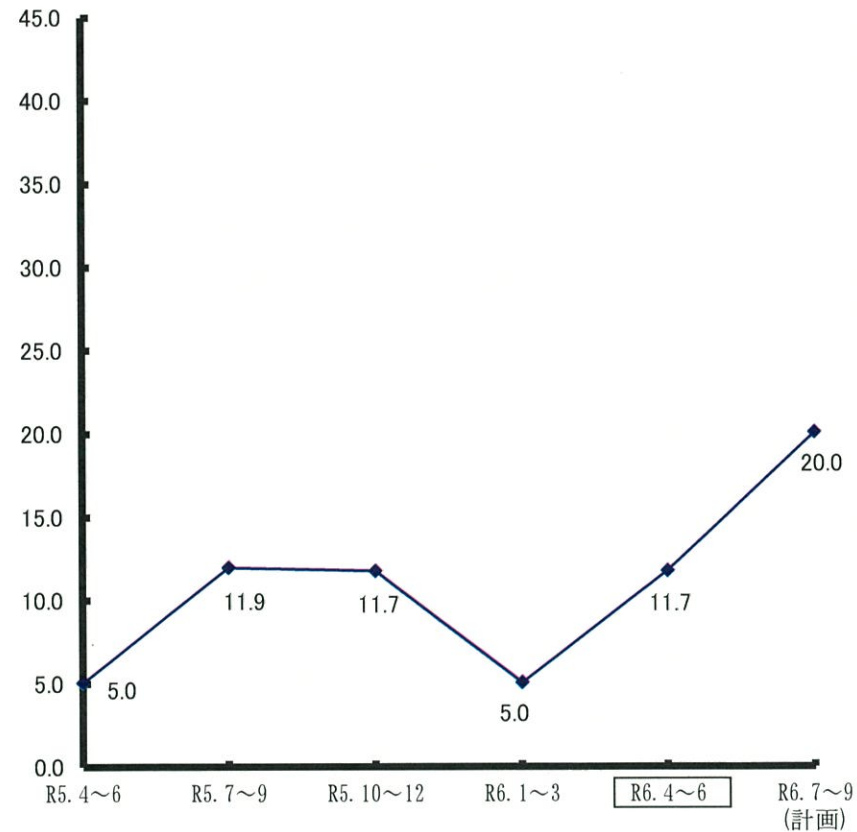
来期は、採算の悪化を予想する企業割合が減少するものの、採算の改善を予想する企業割合の増加がこれを上回ることから、採算D・Iは僅かながら低下し、△18.4まで悪化する見通しです。



設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は増加に転じ、11.7となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は引き続き増加し、20.0程度まで上昇する見通しです。



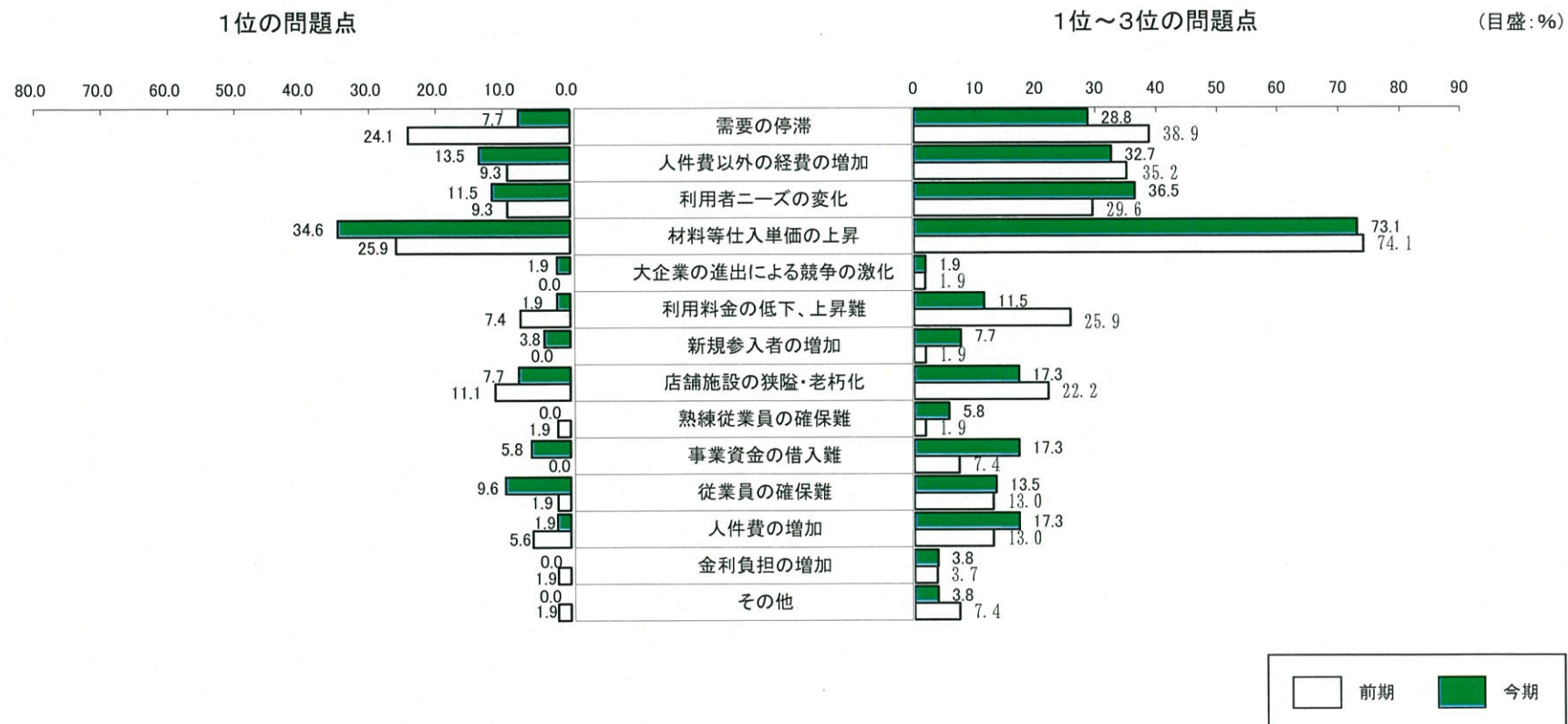
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

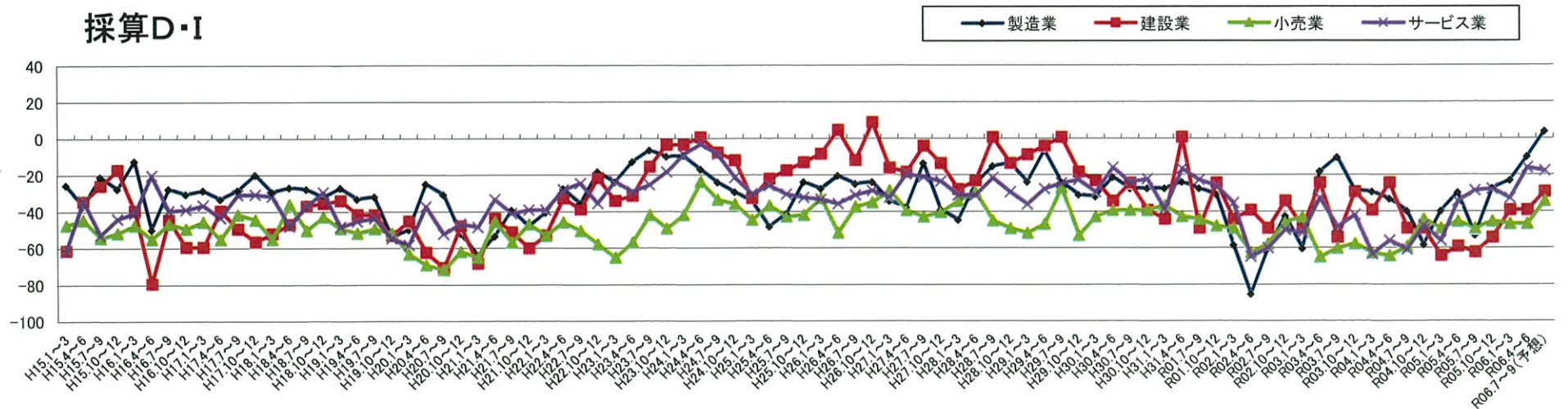
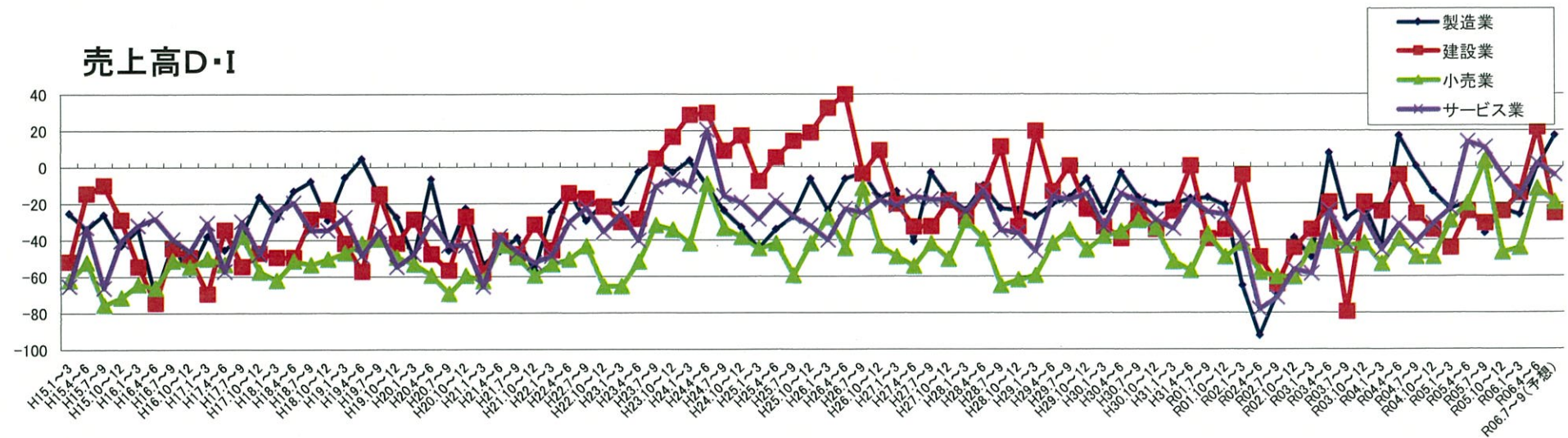
経営上の問題点

岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調查要項

- | | | | | |
|------------|--|-------------|------------------------------|-----------------------|
| 1. 調 査 対 象 | (1) 対象地区 | 県内 10 商工会地区 | 二戸市、八幡平市、雫石、矢巾町、前沢
(商工会名) | 金ヶ崎町、山田町、田野畑村、野田村、一戸町 |
| | (2) 対象企業数 | 150 | 企業 | |
| | (3) 回答企業数 | 150 | 企業 | |
| 2. 調査対象期間 | 令和6年4月～6月を対象とし、調査時点は令和6年6月1日としました。 | | | |
| 3. 調査方法 | (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。 | | | |
| | (2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。 | | | |

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建設業		20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業		40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サービス業		60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
		150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比(%)を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転、長期化）企業割合と減少（低下、悪化、短期化）企業割合の差を示すものであります。